

がい、ことであるのみでなく、習慣を失はせるといふことが、最もよくないことだからです。習慣といふものは、その内容のねうちの外に、自ら習慣を破らぬといふ處に、大きな教育的ねうちがあるのですから、そこは、傍からも注意しなければなりません。決して、休み中位休んでもよからうで、傍から習慣破壊のけしかけや、手傳ひをしてはなりません。

幼稚園では、皆でする爲に、それらの習慣も行はれ易いのです。家庭では一層注意しないと行はれ難いのです。そこを一つしつかり、つづけさせて下さい。そこで夏休みの第三の評語として、生活訓練は幼稚園と同じにといふことを、之れも一つ壁に貼りつけて置いていたゞきませう。

× × ×

壁に貼ることが大分多くなりましてが、かうした注意事項の外に、夏休みの一番肝心なところを忘れてはなりませんまい。

それは、このお休み中こそ、お母さ

んがその計劃と工夫とで、一手にお子さんの生活指導に當れるといふことです。私達は幼稚園へお子さん方をお預りして、なんとなく心配になることは、お子さんをお母さまから奪ひ過ぎはしないかといふことです。それを、夏休みには、すつかりお母さまにお返しすることが出来るのです。

さあ此のお休み中こそ、わたしの手で我子の健康も訓練もしつかりして見せる。平生幼稚園でしてゐることを訂正し、補充してやる……では少々私達が御挨拶に困りますが、家庭教育専一期間としてこの夏休みは、お母さまのどんなにかお楽しみのことかお察し申上げるのです。その、母としての楽しみが一ぱいでなくては、子ども生活もひきしまることは出来ません。夏休みは幼稚園の休みでも、家庭生活の休業ではありませぬ。但しこれは壁よりもお母さんの心に貼りつけておくことでせう。

## 母のこよみ

### 汗と子ども

汗の季節になりました。汗は、氣にするといやなものですが、汗の出るのも氣のつかない程に力の入つた生活は貴いものです。おとなの勞働と、子どもの遊戯とがそれです。額に汗してといふのは、自ら働くことに使はれる言葉ですが、一生懸命遊ぶ子にもあてはまります。いや額だけでは足りないことで、全身の汗こそ、よく遊ぶ子の姿です。

その汗をきらつてはいけません。おそれはいけません。またこんな汗だらけにして……と、子どもよりも着物を大切にしたりしてはいけません。

ただ一つ大事な注意は、その汗の後始末です。汗にぬれたまゝの着物で風をひかせないことです。汗くさいまゝの着物で不潔にしないことです。之は分りきつたことを申して汗顔の至り。